

家族の方から ※ご協力よろしくお願いします。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

30年ほど前、この加西市内にも、お菓子を売り歩くおじさんや、子供たちの夏休みの時期には、カブトムシやワフガタを売るおじさんがいたそうです。この話の母白川母の花売りの女性たちも、加西のおじさんたちも地域の人とのつながりを大切に楽しんでいただけたと思います。人との関わりが薄れてきた現代、やはり、生活を楽しむためには、人のつながりが一番重要ではないのかと、考えさせられました。

家族の方から ※ご協力よろしくお願いします。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

いざあたたかくなるお話でした。四十年余り前のお話ということ、今はもう花売りされている方はおられないのでしょうか？ 現在は便利な世の中になり、会わなくても話しかけてやり取り（メールやライン）、特に今はコロナ禍で人と会うこと自体に制限があり、便利な分、寂しさも感じることもあります。人と人のつながりを直接感じられる「私の祖母」のお仕事として素敵た「はな」と思いました。

家族の方から ※ご協力よろしくお願いします。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

ご近所々のお付き合いも薄れてきている最近、家族以外に自分を待ててくれる存在がある事が辛い事だと思います。『おはあかんどの人柄あってこそ』と思いましたが、お互いに話せる事や出会う事、『人とのつながり』を支えにされているんだと話しました。『人は人では生きていけない』という事を実感し、私達もこんな風に寄り添いながら生きていくらしいと話しました。

家族の方から ※ご協力よろしくお願いします。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

今ではあまり見られない販売方法であること。販売しているものは「花」という商品である。しかし、祖母とお客さんの間には「商品とお金」だけでなく、「相手思いやる優しさ」「カウンセリングのような会話」という形で「はな」があらわすことのできる、とても大切なやりとりが存在し、お互いにそれを必要としている。現在はもうない人間関係がなくなっているので今一度周囲の人との関係をおため直したいと思いをいたしました。

家族の方から ※ご協力よろしくお願いします。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

祖母は、お花を届けると共に お客さんの話を聞いたり、温かく心に寄り添ったり 心の支えになっていたと思います。だからこそ、いつまでもお客さんに親しんで、必要とされていたのだと思います。そして、それが、祖母の生きがいなのだと思います。人から必要とされて、そしてそれに やりがい、生きがいを感じてできる仕事にめぐり会うというのは素晴らしいと思います。仕事というのは、

楽しい事だけでなく つらい事もあるけど、やりがいの ある仕事は、つらくても 苦しくても がんばれるし、乗り越えられます。そんな仕事にめぐり会えたらいいなと思います。

家族の方から ※ご協力よろしくお願いします。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

^(花)物を売るだけでなく、買ってくれるお客様の心に寄り添う、温かな交流、相手と信頼し、そして、相手からも信頼される。それは、年数の積み重ねで培われていく。祖母の人柄の良さ、お二人のこと柄の良さ。お互いのことを思いやり、互いに存在が自分を必要としてくれる仕事は、
祖母にとっても やりがいがあり、大変だけれども、幸せに思われていた仕事なのではないかと

家族の方から ※ご協力よろしくお願いします。

家族の方が忙しい場合は、どのような話をしたか書いてみましょう。

祖母が花を売りながら 築いてきた人間関係が、素敵でした。地域の人とのつながりが、「待っていてくれる人がいる」という祖母の働きが、生きがいにつながっているし、祖母もまた地域の人たちの事を心から想って、花を売る仕事を続けているのであろう。